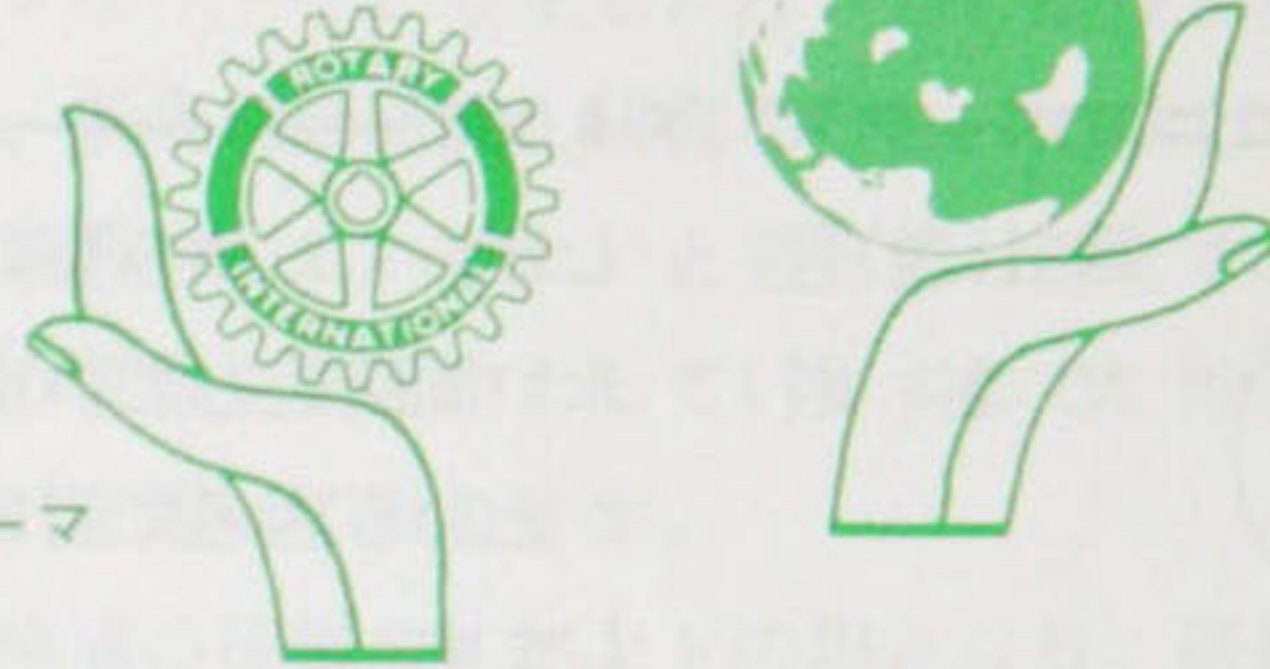


### ロータリアン—— 奉仕に結束——平和に献身

ROTARIANS——  
UNITED IN SERVICE-DEDICATED TO PEACE

1987-'88 年度国際ロータリーのテーマ



- 国際ロータリー会長 チャールズ C. ケラー ● 第256地区ガバナー 安藤文夫
- 会長 — 熊倉 昌平 ● 幹事 — 内山 辰策 ● SAA — 川又嘉瑞範、帰山忠家
- 例会日 — 毎週水曜日12:30~ ● 例会場 — 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
- 事務局 — 三条市旭町2-5-10 (TEL-35-3477) (TEL34-3311)
- クラブ会報委員 — 加藤紋次郎、平原信行、池田俊一、箱崎源伸、渡辺喜彦

出席率： 会員 65名中 52名 : 先々週出席率： 90.32% (前年同期 86.36%)

今日のお花： 黄菊

ヴィジター： 三条南より 橋本和雄君  
三条北より 中條耕二君  
分水より 原 栄一君

ゲスト： 新潟県県央地場産業センター 専務理事 高橋源郷殿

先週のメイクアップ： 12/3 燕へ 藤田説量君、外山一郎君、吉井俊介君、  
五十嵐総一君、丸山金重君

12/7 三条南へ 小林九満太君、加藤紋次郎君

12/8 三条北へ 中川由春君

会長挨拶： 熊倉会長

米ソが中距離核戦力を全廃する条約を結び、世界平和に大きな意義をもたらしました。

経済の方は円高ドル安が益々激しい情勢ですが、早く安定してもらいたいものです。

東京の土地価格が暴騰し、大きな問題となっております。建築家の丹下健三先生が20年くらい前に「東京の山の手線の内側は凡てビルになる」との見解を発表しておられました。経済の進展の根拠を示しての予見でありました。丹下先生の予見が的中しておるわけです。

将来を見通した政策が適確に進められることが大切だと痛感します。



幹事報告： 内山(辰)幹事

- 赤十字血液センターより 広報誌「輪」11月号がとどいております。
- いからしの里より 「サンタクロース団派遣方依頼申請」
- 三条市教育委員会他より 三条市小中学校特殊教育研究協議会より 「クリスマス母子の集い」協力のお礼状がとどいております。
- 勤労青少年ホームより ホームだより「12月号」

ニコニコボックス ￥4,000



藤田(説)君 しばらくお休みをいただきました。  
 大谷君 永い間閉店していました中央商店街内の店を新しくブルックリンという店名で明日オープンします。宜しく御引き立てをお願いします。  
 伊藤君 私が行って来たヤマギシズム研鑽(特講)に次男も行って来て呉れて嬉しかった。

卓話： 地場産業振興センターについて

新潟県県央地場産業振興センター専務理事 高橋源郷殿



県央地場産業振興センターの概要を申し上げまして、今後のご支援とご協力をお願い申し上げたいということでこのような機会を作っていただいたことを感謝申し上げます。

まず、県央地場産業振興センターの構想を申し上げますと、構想が最初に出したのは昭和55年で、中小企業庁が各都道府県の中小企業団体中央会の組織に中小企業が地場産業振興システム開発整備調査委託ということで、この調査委託にもとづきまして、56年に報告書がでて、その中で振興センター構想が出来たわけです。

この名前は地場産業育成が主でその地方の産業を発展させることが主体になるわけですが、地場産業と地域の結びつきが強いわけで、地場産業振興と同時にその他の振興もあわせもつことがうたわれています。

この構想は全国2,900の組合を調査して、その中の1,000組合の中から回答がきて、新潟県では約34の組合がございましてこれを現地調査しまして十日町が早くから出来まして、三条、燕地区も61~62年度に国の補助金が認められ、振興センターとして全国で33番目に発足した次第です。そして今年の3月に着工しまして、現在57%弱の進行率ということで、予定どおり来年の3月には出来、5月オープンできるというのが現状です。

このセンターは県と三条市、燕市と三条・燕の業界からなる財団法人でございます。施設規模は本館棟、中央棟、展示即売棟、多目的大ホール棟、駐車場からなっております。交通の便につきましても三条・燕インターに近く、新幹線駅にも近く、地理的には便利ではないかと思っております。規模の目玉を紹介しますと、多目的大ホールをはじめとして、新商品、新技術開発、プラザには工作機械や精密測定機械を設置し、地場中小企業のレベルアップを図る事や国際性を考慮し、同時通訳システムを設置した特別会議室を設けたりします。

センターを運営するにあたり、業界にアンケートをとりましたところ、生産管理と品質管理の研修をやってほしいとの要望が多くあり、新素材の研究、研修を行なってほしいなどの要望があり、センターとしても積極的に研修、講習をしていきたいと思っております。

センターの目標としていますのは、情報の収集を主といたしていますので、地域の中小企業情報センターとしての役割を担っていききたいと思っております。

いずれは皆様方から利用していただき、地域の皆様のイベントの場となり、研修の場となり、レストランもございまして、オアシスの場となりますので、オープンの際はぜひご利用下さいますことをお願いいたします。

家族紹介：

五十嵐総一会員



昭和45年西崎美幸先生(西崎流)門下生の一人を紹介され、11月に小沢辰男先生の御媒約により結婚して17年。

46年9月16日生まれ 薫

48年5月9日生まれ 茜

50年8月16日生まれ 恵

(私と同月同日生まれ)

が誕生し、あっという間に女の子ばかりの親となってしまいました。しかし、願いかなっ

て、55年4月に長男敬が誕生一家で万才!!

私の兄弟、姉の子供(4人)、妹の子供(3人)全部名前を一字に統一致しました。

昭和59年4月に父を亡くし、4代目を継ぐ役割になりましたが、これからの子供達の成長を見守り、私の母と共に(一家7人)いつまでも健康でありたいと願う。



高橋清見会員



妻：博子

もう直ぐ金婚式という老夫婦である。

妻は広島生まれの姫路育ち。小生は北海道の産である。両者の生誕地を結ぶ直線のほぼ中央が新潟県に当たるのだから不思議である。よきバランスが保たれていて、男女同県ではないのに、男女同権の均衡の失われない所以かも知れない。

長い半世紀という年月のことである、`よろこびも悲しみも……、で綴られたドラマで

あったことは、いずれの夫婦とも同じであろうし、それは、その夫婦だけが持ち続ける宝であろう。

2人とも健康である。別居している子供には心配をかけていないことが幸せの一つでもある。

妻は茶道（表千家）と、謡曲（観世流、名誉師範）で仲々忙しい。お仲間も多く、旅行にもよく出かける。小生が「放し飼いにしてある」と言って二人で大笑いする。

松川星吾会員

我が家は老夫婦の二人暮らし、長女は近所に嫁ぎ二男一女にめぐまれ、長男は新潟に住みサラリーマン、現在一男一女にめぐまれる。

小さい二人が内孫で娘と中学三年生の子は写って居りません。ヂヂ、ババ馬鹿で孫とたわむれ遊ぶのが楽しみです。



会報委員会：

- 週報22号の記事の中で、ご挨拶にかえてのコーナーで1989～1990年度会長エレクトとありますのは1989～1990年度会長ノミニーの間違いにつき訂正してご迷惑おかけいたしましたことお詫び致します。
- 会員家族紹介コーナーの原稿を依頼されている会員で、提出期限のきれっている方はお手数でも至急事務局に提出お願い致します。

---

次 週 例 会	12月16日	夜の例会「忘年会」PM 6：30～	三条ロイヤルホテル
次々週例会	12月23日	卓話	堀川政雄会員

---